



(1) 第 13 次ネパールツアーを終えて

ツアー団長を務めた高木理事より、以下のようなツアー報告（速報）がありました。

「子どもたちの笑顔に感謝」

安藤さん、曾根さん、林さん、そして船津理事と私の 5 名からなるツアーは、3 月 13 日午前成田を発ち、香港、ダッカ経由で夜 11 時過ぎにカトマンズ到着。燃料不足問題は、国境封鎖の解除によりディーゼル燃料がまだ不足状態であるものの、ガソリン、液化ガスはほとんど問題なく調達可能になってきたとのロス氏（現地コーディネーター）の話に、車での移動、ホテル・飲食店での食事は全て問題なしと一安心してホテルにチェックイン。翌 14 日パイラワ経由でタンセンに向かう。途中震災で損壊した家屋をほとんど見ることはなくタンセンに入り、OKバジと合流。

午後、今回のツアーで唯一の公式行事、増築校舎引渡し式のためブッシュルダダ校を訪問。震災により工事の遅滞が心配されたが、昨年度と今年度で総額 260 万 Rs. の支援により立派な校舎（写真の校舎右側 4 教室）が完成。式典は、生憎の雨でテープカットのみとなったが正式に引渡しを完了。教室の中は、若いアーティストの提案でそれぞれ壁一面に異なる絵が描かれ、明るい雰囲気を生み出していた。

同校は、現在在学学生は 384 名、10 年生 12 名が同校として初めて SLC（全国統一卒業資格試験）に挑戦。全員合格を目指して、先生がたは



毎日朝の 5 時から夜 9 時まで受験指導に当たっているとのこと。朗報が届くのを期待していると伝えた。今抱えている財政的課題は、先生の給与補助基金の増額と、老朽化し現在倉庫として使用している校舎（3 教室）の建替え資金の調達であるが、良い先生が確保でき、生徒が集まれば、建替え資金の方は捻出できるようになるので、基金の増額を優先して取組みたいと考えているとのこと。

15 日は地震で損壊した支援校を訪問。午前はカリカ幼児教室。壁面の損傷は少なく、地盤沈下により二階部分の床が大きく沈下して亀裂が生じていた。また、午後は支援校で最も被害が大きかったと思われるジャナヒット校を訪問。校舎の壁、床には大きな亀裂が沢山あり（写真右）、全く使用出来る状況にはなく、損傷の少ない別棟の教室を、一つの入り口で内部を二分割して使用していた。

16 日午前も当法人の支援校ではないものの、OKバジに復旧支援要請があったシルワ郡のシュリサラダ校を訪問。老朽化した棟は、壁の亀裂や二階教室の床抜けなど損傷が大



大きく、棟は封鎖され、竹作りの仮設教室（写真左）で生徒たちは授業を受けていた。隣教室の音が漏れてきて、まともな授業ができないという問題があるとのこと。いずれの学校も大規模な改修ないし建替え工事が必須であり、財源として当法人の救援金が最も大きく、それを如何に有効活用するかOKバジは悩んでおられた。救援金の使途先については、当法人からの条件はないので、全てOKバジのご判断に委ねますとお伝えした。



また 16 日は、被害の少なかったジャナカラヤン校を表敬訪問。OKバジと団長が校長らと打合わせ中に、他のメンバーは各教室を訪れ、歌を披露したり、紙飛行機の作り方を教えたりして、生徒たちとの交流を楽しんでいた。

これまで学校周辺は深刻な水問題を抱えていたが、政府が汲上げポンプで村全体にメーター式給水システムを導入する工事を始めており、近々学校に優先して給水管が敷設される予定でトイレ環境は大幅に改善されるとのこと。現在抱えている課題は、先生の給与改善、コンピュータ室の充実（現在 2 台）、10 年制とするための 3 教室増築で、増築のための支柱建設は教育省からの資金（10 万 Rs.）で完了しているとの報告を受け、当法人は今年度、来年度は損壊した学校の復興を最優先に支援していく方針であり、次次年度以降の検討案件としたい旨返答した。

支援校訪問後は、グルン族が住む集落でのホームステイ、晴天であればダウラギリからエベレストまで一望できる標高 2400m の山村での散策を体験して、カトマンズに戻り、震災被害の大きかった古都や郊外の村を訪れた。

道路はきれいに片付けられていたが、損壊した家屋は震災直後のままの状態。

あと 2 ヶ月で雨季となり、復興作業はまた中断。多くの被災者が以前の生活に戻れる時期は全く見通しが立たないように思った。そうした厳しい状況を見て、気持ちが沈みがちのメンバー一行は、ネパール子どもたちのいきいきとした目の輝きや素晴らしい笑顔に救われたとの思いを抱いて、22 日に無事帰国した。（文責：高木）



（２）2016 年度 OKバジ帰国報告会開催スケジュール

当法人が主催する新年度の OKバジ帰国報告会のスケジュールが以下の通りになりました。

- ①東京：6 月 8 日（水）【予定】定期総会終了後～17：00 文京シビックセンター 5 階 区民会議室
東京都文京区春日 1-16-21
（東京メトロ・丸の内線/南北線「後樂園」駅下車徒歩 3 分、都営地下鉄・三田線/大江戸線「春日」駅下車徒歩 3 分）
- ②鴻巣：6 月 9 日（木）13：30～16：30 鴻巣文化センター（クレアこうのす）
埼玉県鴻巣市中央 1-29（JR 高崎線「鴻巣」駅東口・バス「免許センター」下車徒歩 2 分）
「ナマステ 2011」の「ネパールツアー報告」を同時に行います。
- ③千葉：6 月 16 日（木）14：00～16：30 千葉市生涯学習センター 地下 1 階 メディアエッグ
千葉市中央区弁天 3-7-7（JR「千葉」駅東口・北口下車徒歩 8 分）
- ④仙台：7 月 5 日（火）13：30～16：30 エル・ソーラ仙台 大研修室（仙台・アエル 28 階）
仙台市青葉区中央 1-3-1（JR「仙台」駅西口下車徒歩 3 分）
第 9 回総会の議決内容の報告を同時に行います。
- ⑤大和：7 月 19 日（木）13：30～16：00 市民活動センター
大和市中央 1-5-1（小田急線・相鉄線「大和」駅南口下車徒歩 3 分）
- ⑥横浜：7 月 23 日（土）15：30～17：30 あーすぷらざ 1 階 多目的室
横浜市栄区小菅ヶ谷 1-2-1（JR 根岸線「本郷台」駅下車徒歩 3 分）

この他に、東京・蒲田での報告会も計画中です。

≪編集後記≫大地震が発生してから間もなく 1 年が経つネパールの現状はとても厳しいですが、なにかネパールの人びとの生活力の凄さを感じました。大地震は神から下された天罰と考えているからなのでしょう。（編集担当：KT）

菜の花の暮れてなほある水明り 長谷川 素逝

認定 NPO 法人 いきいきフォーラム草の根支援

〒113-0023 東京都文京区向丘 1-7-8 コミュニティ・スペースほのぼの内

TEL/FAX 03-3816-5346 E-Mail f-kusanone@tcn-catv.ne.jp

<http://www1.tcn-catv.ne.jp/ikiiki-kusanone>